【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和６年度第２学年　国語科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・村学力調査の問題内容では，「文法・語句に関する事項」の目標値 40%に対して，校内正答率 0%だった。

・村学力調査の問題内容では，「文学的な文章の内容を読み取る」の目標値 55%に対して，校内正答率 25%だった。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容

・「文法・語句に関する事項」については，「計画的に漢字学習の習熟度を確認し，個別支援を充実する。」という改善プランを策定した。

・「文学的な文章の内容を読み取る」については，令和４年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・「文法・語句に関する事項」については，小学校の漢字の復習を計画的に行っている。

・「文学的な文章の内容を読み取る」については，読書活動を取り入れている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①漢字の部首に関する習熟度を計画的に確認し，個別支援の充実を図る。	❶２学期の授業で，「文法・語句に関する事項」の「漢字の部首について理解している」の問題項目の正答率が，１学期を上回っているか確認する。
②文学的な文章を読み取る習熟度を計画的に確認し，個別最適な支援を実践する。	❷２学期の授業で，「文学的な文章を読み取る」の問題項目の正答率が，１学期を上回っているか確認する。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞

漢字の部首について正答率が 49.5%と１学期を上回った。また，「文学的な文章を読み取る」の問題項目の正答率が 65.7%と１学期を上回った。

＜課題＞

文法の活用に関する学習内容に難しさを感じる生徒が表出し，学習意欲の向上に課題が残った。

５．令和７年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

既習事項の文法と文や文章を書く活動を関連付けて効果的な学習指導を実践する。

６．令和７年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿

文法や文章を書くことに対する意欲が，らせん的に学力向上に結び付く生徒。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和６年度第２学年　社会科〉

１.「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・基本的知識の習得　　・知識を活用した表現力の向上

例１　全国平均とほぼ同程度であった。ただし,地理領域においては，全国平均を下回る結果となっており,課題があるといえる
（令和６年度　小笠原村学力調査の結果　参照）

例２　令和６年度本校教科アンケート　「この教科の学習内容について，現在どの程度理解をしていますか」について,「あてはまる」「だいたいあてはまる」１００％　（４名中　４名）

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容

①全体的に,「思考・判断・表現」の領域に課題がある。
②基礎学力について，令和３年度の結果と比べて上昇しているが「主体的に学習に取り組む態度」に課題がある。(①・②ともに令和４年度　村学力調査の内容より)

⇒　現状と，令和４年度の改善プランに関連性は見られない。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

上記課題にもあるように，生徒はある一定分野の課題を残しながらも『分かってきている』分野もある。今年度は，社会科として重要視している，多面的・多角的な深い学びを得られる授業構成により，表現力を伸長させていく。(この表現力を『できる』力と定義する)
以下，方策に記す。【以上，歴史分野】

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①小単元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。

②後期授業評価アンケートを実施する。
③上記（２）①の工夫を実践する。

＜検証方法＞

❶課題の評価（第二観点　Ａ～Ｃ以下）について，全課題・全生徒の評価平均の結果分析（目標値は平均値Ｂ以上）【歴史分野】

❷・❸に共通して　後期授業評価アンケートの結果分析（目標値は，理解度Ａ【あてはまる】　Ｂ【だいたいあてはまる】１００％）

４．検証結果(成果と課題)

①平均値Ｂ以上。目標値を達成した。
　個別支援の方法が課題として残る。
②結果Ｂ　目標値を達成した。
　目標値を達成した一方，Ａには届かなかった。
　授業中において知識理解の向上を図りたい。

５．令和７年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

パフォーマンス課題における第二観点評価の向上に向け，多角的に学ぶことができるような工夫を授業において行う。

６．令和７年度(次学年)末に期待する生徒の姿

より深く思考・判断・表現することができる姿。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和６年度第２学年　数学科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

２年生数学を見ると，村学力調査において全国平均とほぼ同程度となっているがデータの活用の領域に ついては全国平均を下回っており課題である 。授業を行う中で，小学校での基礎的な計算方法が部分的に身に付いていない場合があり，些細な計算ミスをよくしてしまうところがある。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容

・学力調査の結果から，全体的に「思考・判断・表現」の領域に課題がある。特に文章題において顕著である。

・学力調査の結果において，校内平均が昨年度，今年度ともに 60 点程度であり，全国平均と概ね同様であるといえるが，個人差が大きいことが課題である。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・毎単元に自力解決で行う問題演習の前に，クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。

・「連立方程式」の単元において，ICT 機器を使用した教え合い活動。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①過去の既習内容の苦手意識を取り除き，間違えたことを隠さず確認していくことで，主体的に学習に取り組む態度を育成する。

②自分の考えをまとめ，クラスメイトに共有することで深く理解する。

＜検証方法＞

❶小テスト

実施前と後に行い，定着度を確認する。

❷ICT 機器を用いた発表

発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞スライドなどを使用し間違えやすいところや考えを説明できた。

＜課題＞問題の意図の読み間違えがたまにあることが課題である。

５．令和７年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

受検（受験）などの文章題で読み取る量が増える

ため，読み取りの問題を増やしていく。

６．令和７年度（次学年）末に期待する生徒の姿

問題の意図を正しく理解し，問題解決に使用できる生徒。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和６年度第２学年　理科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和６年度村学力調査結果より，次のことが挙げられる。

・「水溶液の性質」でのパーセント濃度の計算は正答率 20%を下回った。

・「火山」「地層」分野はどの項目も平均正解率を 10%ほど下回った。基礎知識の定着が課題である。

・図，表，グラフ等の資料を読み取る問いに関しては，この単元のみならず全般的に課題が見られる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容

・「大地のつくりと変化」の校内平均正答率が 14.3%であり，目標値 40.0%および全国平均 23.5%よりも低い。また，「大地のつくりと変化」の校内平均正答率が 57.1%であり，目標値 70.0%および全国平均 77.4%よりも低い。

・会話文やまとめられた図，表，グラフ等の資料を読み取る問いに関しては，この単元のみならず全般的に課題が見られる。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・地球分野は中学校１年生で学習しているので，個々の能力に応じた復習問題を補充する。中学校２年生で学習する地球分野においても，タブレット端末を活用しモデル実験や図，映像資料を使い，主体的に考える学習活動を充実させる。

・小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着を図る。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。

②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。

＜検証方法＞

❶ＩＣＴを用いた発表の評価と年間２回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。

❷年間 15 回程度の小テストと年間４回の定期考査を実施し，内容を分析する。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞

・実験での意見を共有する時間をより多く設けたことで，自分の考えをアウトプットできる生徒が増えた。

・小テストや定期考査の結果から，文章読解力を要する問題の正答率を高めることができた。

＜課題＞

実験をモデルにした文章題を読み取る力はあるが，基礎知識やの百分率の計算でミスをする生徒が見られた。

５．令和７年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

小テストの予想問題を活用し，定期的に家庭学習の機会を設定する。また，基礎知識の定着を図るためにタブレットを用いて授業の振り返りを行う。

６．令和７年度（次学年）末に期待する生徒の姿

自然事物・事象に興味をもち，主体的に学習に取り組むことができる生徒。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和６年度第２学年　音楽科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

前年度，理解度の項目についてＣの「あまりあてはまらない」が 25%だったが，生徒全員Ｂ以上となった。

学年のよさであるが，領域に関係なく他者と協力しながら物事を進める傾向にあり，協働的な活動においては積極的な意見交換や練習する姿が見られる。

しかし，理解度の項目について前年度からの改善は見られたものの，Ａの「あてはまる」に該当する生徒がおらず，さらに理解力を高めていくことが課題である。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容

・「わかった」「できた」と達成感を味わっても，その達成感に個人差がある。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

表現活動に意欲的な学年であるため，ためらうこともなく自分を表現することができる。現在，できていることを生かしながら，自分の考えなどを価値付けするために教師の言葉かけの工夫を行っている。特に，歌唱領域においては前年度からの課題である“声量”は改善されつつあるが，全員満足できるところまでに至っていない。そのため，声量を安定させるための技能の習得に焦点を当て，音楽を形づくっている要素と関連した身体の使い方を意識し，表現活動を充実させる。また，少人数指導の強みを生かし，一人一人にあった個別指導を取り入れ，個人差がある達成感を改善していく。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①ドリルを実施する。	❶フォームを使ったドリルを実施し，授業に対する理解の定着を確認する。
②アンケートを実施する。	❷フォームを使ったアンケートの分析し，授業改善に生かす。
③期末考査の分析を行う。	❸期末考査の分析を実施し，ドリル作成や授業改善に生かす。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞

歌唱分野に関しては姿勢や口の開け方など基礎的なことを確認し、楽曲についてどのように歌うか根拠をもち歌唱表現に生かすことができた。

＜課題＞

「知識・技能」と絡ませながら、自分の考えについて根拠をもって説明することができるが、分野によってはねらいがずれてしまうことがある。

５．令和７年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

教材の中でねらいは何なのかを明確にし、音楽を表現するための技能や知識を絡ませながら表現活動ができるよう指導する。

歌唱以外の分野も興味をもっている。器楽や創作の分野を充実させる必要がある。

６．令和７年度（次学年）末に期待する生徒の姿

音楽に親しみ、どの分野も楽しみながら表現活動ができる生徒

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和６年度第２学年　美術科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

昨年度の経験が生きて課題解決の力が大きく伸びたと感じられる場面もあるが，自ら主体的に課題にアプローチして取り組む力や、自分の置かれている状況を判断しながら見通しをもって組み立てる力をさらに伸ばしていけるとよい。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】授業への興味・関心は高いが，学習内容の確実な定着については，改善が図られるとよいと考えられる。

【改善策】

・表現活動においては，活動に応じて材料や用具を活用し，全学年までの学習内容や経験，技能等を総合的に生かしたり，方法などを組み合わせたりするなどして，活動を工夫する指導を行う。

・表現活動における造形遊びの過程や振り返りにおいて，児童自らがタブレット端末やデジタルカメラを活用することで，図画工作科の学習におけるメタ認知能力を高める。

【評価】授業内のすべての活動に真摯に取り組む姿勢が見られ，与えられた課題も細分化されたステップごとに解決していこうとする意識が高いため，成果が作品に顕著に表れている。より汎用的な課題解決力を養っていくためのレベルアップを意図した授業改善を継続していく。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・作品制作の中間発表とグループでの鑑賞活動を行い，協働的な学びの場を設けて互いの作品のブラッシュアップの機会を増やしている。

・題材ごとの導入を丁寧に行い，スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また，振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い，次回の自分に向けての覚え書きを残すなど，主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作っている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①年間２回授業評価アンケートを実施する。

②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。

＜検証方法＞

❶年間２回の授業評価アンケートの実施内容分析。

❷振り返りワークシートのフィードバックを行い，自己評価を継続して比較する。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞

・既習事項を活用して構想を練り，身に付けた知識や技能を発揮しながら作品制作に取り組むことができた。

＜課題＞

・すべての生徒が昨年度の経験を生かし，振り返りワークシートやクラスルームを使いながら進捗を自己管理できるようになってきているが，見通しがあまく他教科とのバランスがとれない生徒がいることが課題。

５．令和７年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・題材導入時点からゴールまでの見通しをもてるよう，工程を可視化して常に確認できる環境をクラスルームで作り進捗状況の共有を行うことを継続する。

・振り返りワークシートや課題等共有ファイルの機能を活用し，進捗管理のサポートやリマインド，フィードバックなどを丁寧に行う。

６．令和７年度（次学年）末に期待する生徒の姿

計画性と自己管理能力を高め，学んだことや身に付けた力を最大限発揮できるような生徒。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和６年度第２学年　保健体育科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

授業評価アンケートの結果より，「教科の関心を高められているか」，「内容を理解しているか」という質問に対して，全生徒が肯定的にとらえている。一方，「授業で身に付けたことがどのようなときに生かされるか」という質問については，各自が取り組んでいる競技で生かすことができるという内容にとどまっており，汎用的に生かせるようにすることが課題である。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容

・体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動を設定し，年間を通して授業の導入部分で実践している。
・学習カードや ICT 機器を活用し，運動のポイントが視覚的にわかりやすいように工夫している。
・体力の違いや技能に応じて，ルールの緩和を行い，全員がゲームに参加できるようにしている。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・技能の習得に繋がる補強運動を設定し，単元に応じた技能の習得を目指す。
・学ぶ内容の全体像や授業の流れを示す際に，言葉だけではなく視覚的な手がかりや ICT 機器を活用する。
・運動の楽しさを「する・観る・支える」の視点から捉えられるように授業に関連付ける。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①年間２回の授業評価アンケートの実施をする。	❶年間２回の授業評価アンケートの実施内容分析
②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項，前時との関係性がわかるように板書やワークシート，スライドを活用する。	❷スプレットシートで授業内容の理解度を確認・分析

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

・後期授業評価アンケートの結果から，「興味・関心を高めている」という生徒が９割を占め，主体的な学びを促すことができた。
・見通しをもって授業に取り組んだことで、実技テストや学習発表に向けて計画的に練習に取り組むことができた。

＜課題＞

・分析した自分の課題と解決に向けた練習方法を正しく選択できないことがある。

５．令和７年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・自己の技能習得の達成度にかかわらずアドバイスし合えるように，どこにポイントをおいて観察すれば良いかを理解させる。
・複式学級における男女共習授業であることを配慮し，より多くの生徒の意見を共有し，学びを深めることができる環境を整える。

６．令和７年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

心と体を一体として捉え、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を伸ばせる生徒。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和６年度第２学年　技術科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・学習における課題設定と，振り返りを習慣化させることが求められる。
・実践的・体験的な学習活動では，全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが，知識の観点で差が出てくる生徒がいる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容
・プリント教材を用意し，毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。
・作業に遅れがある生徒には，道具の使い方を実演・助言を行い，進度をそろえる。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
・学習振り返りシートを用意し，毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し，授業の理解度を深める。
・グループワークを取り入れ，学び合いを活発化させることで知識・技能の習熟を図る。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞
①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ，適切な支援を行う。
②ノートやワークシートで課題に気付き，解決できる能力を身に付けさせる。

＜検証方法＞
❶課題，考査，授業評価アンケート

❷課題，考査，授業評価アンケート

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞
・振り返りシートを活用し、フィードバッグによる支援を行ったことにより、特に調べ学習や作業において、自主的に活動ができるようになった。

＜課題＞
・技術分野におけるキーワード（技術的な根拠）を踏まえた上での説明する力に課題がある。

５．令和７年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・振り返りシートのフィードバッグに、教師が意図的に技術分野のキーワードを活用し、本時で学んだことと技術の根拠が結び付けられるような言葉掛けを行い、より生徒の表現力を高められるよう、支援を継続する。

６．令和７年度（次学年）末に期待する生徒の姿

使用条件や使用目的を踏まえ，自分の考えや思いを，技術的な根拠を基に相手に伝えることができる生徒

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和６年度第２学年　家庭科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・基礎的な知識の定着。
・既習事項を活用しながら自身の生活と結び付けて考えを深め，振り返ることができる生徒が少ない。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容

「基礎的な知識の定着」，「実習や実験などの実践的で体験的な題材以外への興味関心が低いこと」が課題として挙げられている。その授業改善策として実習や実践的な活動の機会を増やし，生徒の実践意欲を高め，基礎的な知識の定着を促すことができたようである。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・ＩＣＴ機器を使用した振り返りシートを活用し，基礎的な知識と実生活での結び付きに注目させながら，振り返ることができるように教師がコメントを返す。
・実習や実験などの実践的で体験的な活動の機会や ICT 機器を活用しながら視覚教材を増やす。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①副教材や視覚教材，ＩＣＴ機器を活用し，実生活と結び付けられるように身近な話題を取り上げて学習意欲を高めながら，生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。	❶授業内での課題や実習記録，年間３回の定期考査，年間２回の授業評価アンケート
②実践的で体験的な活動を増やし，自身の体験から基礎的な知識の定着を図る。	❷授業内での課題や実習記録，年間３回の定期考査，年間２回の授業評価アンケート

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞
①自身の生活と結び付けて考えを深めることが少しずつできるようになった。（振り返りシート等の記述より）
②振り返りの内容や授業中の発言などに変化が見られ，既習事項を活用する場面が増えた。（振り返りシートの記述，授業観察より）

＜課題＞
・自身の生活と結び付けて考え，よりよく改善しようとする生徒が少ない。

５．令和７年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・実践的で体験的な授業時間を確保し，自身の生活と結び付けて考えられるような授業を展開する。また，既習事項を活用して振り返るように声掛けを徹底する。

６．令和７年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

・既習事項を活用し，自身の生活と結び付けて考え，よりよく改善しようとする生徒。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和６年度第２学年　英語科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和６年度学力調査の結果において，以下の課題が挙げられる

・「聞くこと」の領域のうち，「内容理解」の問いではクラス平均正答率が 66.7％であり，全国平均に比べ 18.2％低く，問題形式から，絵や写真を見ながら聞いた情報を整理する点に課題がみられる。

・語形・語法の知識・理解を図る問いにおいて，クラス平均正答率は 68.8％で，全国平均より，7.0％上回っているものの，個人で見ると 0.0％，50.0％の生徒がおり，１年生の内容習熟度に課題がみられる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和４年度授業改善推進プラン記載内容

・令和４年度の授業改善推進プランにおいて，「聞くこと」に関する記載なし。

・令和４年度の授業改善推進プランにおいて，「語形・語法」の記載

【課題】既習表現を思い出せないことが多く，知識の定着に課題がある。

【改善策】令和２年度と同様に，既習表現や単語を黒板に書いたり貼ったりすることで，児童が活用しやすいようにする。

【評価】毎時間既習表現の確認を行う時間を設けることで，自信をもって表現できるようになった。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・デジタル教科書を活用し，音声と写真から英語を理解し推測する活動を行う。

・文法の学習において，振り返る機会を意図的に作り，「知識・技能」の定着を図る。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
① 視聴前に新出単語と文法事項を学び，視聴後，ドラマ内容を基に，ＡＬＴと英語で内容確認をしながら動画内容を推測する。	❶各ユニットでのリスニングテスト。
② 単元テストをこまめに行い，定期的に習熟度を測る機会を作る。	❷年間 8 回の単元テスト，年間４回の定期考査の結果分析。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

・音声を聞き，概要を捉える力が高められた

・単元テストに向けて，主体的に学習に取り組む習慣が形成され始めた。

＜課題＞

・音声を聞き取り，概要は捉えられるが，音声内の情報を把握する力に課題がある。

・文法や語彙の定着について個人差がある。

５．令和７年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・情報を把握するために，聞き取った英語を文字化するディクテーション活動の場を設ける

・書いたものを見せ合ったり，対話したりする活動を入れ，生徒間で教え合う場を設ける。

６．令和７年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

基本的な表現方法や語彙の知識を身に付け，英語でのコミュニケーションにおいて活用できる生徒